

平成27年度グローバルリーダーズハイスクール評価シート 府立天王寺高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-2

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	評価審議会の評価		
															コメント	評価	
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る	①自学自習の確立 ②基礎学力の充実・確立 ③英語運用能力	継続	桃陰セミナー、部学習日など（勉強は学校でする自学自習の習慣づけ）	桃陰セミナー実施回数 部学習日実施回数	22回 15回	前年度と同じ回数（土曜授業実施のため事実上は増加）	20回 15回	B	桃陰セミナー1日当たりの平均参加者数。 部学習日の各部ごとの実施回数	316名 年13回	前年度と同回数（土曜授業実施のため実質増加）	289名 年2.5回	B	継続	学力の向上をめざし、アクティブラーニングを進めており、実際に授業で教えあいをしている生徒の興味深い学習活動を見学した。学ぶ側から教える側に立場を替えることから学びを深める取組であるが、客観的な成果、教員の指導力の向上をどのように検証するかが必要であろう。 英語運用能力についてはTOEFLを活用した英語授業・土曜講習の実施により成果を上げており評価する。	AA
			充実	天高スタンダードの充実（各学年で達成する学力基準）及び学力育成プログラムの作成	スタンダード達成基準の見直し、学力育成プログラムの作成、自主教材の作成。指名補習の実施。	自主教材（国・世・数・化・英）	各教科より良き改訂を目指す	自主教材（国・世・数・化・英）	A	スタンダード達成基準の明確化 独自教材の作成教科の増加	学力育成プログラムの改訂。作成教科増加0	学力育成プログラムの改訂。独自教材の増加	学力育成プログラムの改訂。作成教科の増加は0	A	継続		
			継続	イングリッシュキャンプの実施。TOEFLを活用した英語授業を実施。TOEFLを活用した講習を土曜日に実施	参加人数で評価。TOEFLを活用した土曜講習への参加者。	イングリッシュキャンプ55名	2年生の参加者の増加。そのための内容の充実	イングリッシュキャンプ32名	B	TOEFLを活用した土曜講習の実施回数と参加した1日当たりの参加者数。	18回 41名	2年生の参加者の増加。そのための内容の充実	20回 ×2講座 40名	A	再編		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④人権意識、共感力の育成 ⑤チームでの取組 ⑥日本古来の伝統に触れる。（感性の育成）	継続	天高育成プログラムで示される力の育成各種講演会、ワークショップの実施	各種講演会の回数 ワークショップの回数	5回 3回	5回 3回	5回 3回	A	講演会ごとの生徒アンケートによる満足度	90%	90%	90%	A	継続	野外生活体験学習、水泳訓練、金剛登山、徒歩訓練、長距離走などの各種行事や講演会、ワークショップが実施され、生徒の満足度は概ね高い。 今後の効果的な実施に向け、それぞれの取組が3年間での生徒育成にどのような役割や意味を果たすのか、どう有機的に結びついているかの検証が必要であろう。	AA
			継続	天高育成プログラムで示される力の育成野外生活体験学習、水泳訓練、金剛登山、徒歩訓練、長距離走などの実施	計画通りの実施	計画通りの実施	計画通りの実施	A	行事ごとの生徒アンケートにより満足度	90%	90%	85%	B	継続			
			継続	天高育成プログラムで示される力の育成音楽鑑賞、文楽鑑賞	計画通りの実施	計画通りの実施	計画通りの実施	A	行事ごとの生徒アンケートにより満足度	90%	90%	90%	A	継続			
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦規範意識の陶冶と自尊感情の育成 ⑧高い志の育成 ⑨海外セミナーの実施	充実	学校遅刻者の減少	学校遅刻者数	2024	1800	1754	A	部活の加入率	100%	100%	100%	A	継続	高い志を育む取組として、京都大学や大阪大学への見学会、各界で活躍する卒業生による社会人講演会、天高アカデミア等が継続的に実施されている。 国際交流では海外セミナーに加え、台湾の高校との交流を始めるなど拡張の向きがある。科学オリンピック参加者数も増加しており、高い志を育む様々な動きが用意され、実績も上げており、評価できる。	AA
			継続	天高育成プログラムで示される力の育成大阪大学見学会、京都大学見学会、社会人講演会、学部学科説明会 天高アカデミア等	講演会の実施回数	天高アカデミア12回	天高アカデミア12回	天高アカデミア13回	A	各見学会や講演会参加者のアンケートの満足度（非常に満足、満足合計）	90%	90%	90%	A	継続		
			継続	SSHを活用した海外研修。ARVARD,MIT,CAMBRIDGE,GLHSを活用した海外研修。（CALTEC,UCLA等）独自の取組による海外研修。	生徒の満足度。（非常に満足、満足合計）	100%	100%	100%	A	海外セミナーに参加した生徒の内、将来、海外留学を希望する割合。	93%	93%	98%	A	再編		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩研究事業の実施 授業参観日実施 ⑪他府県の先進校見学 教科指導研修会の実施 ⑫新採用や経験の浅い教員対象の研修会	充実	他の教員の授業を見学する。授業公開習慣を設置する。研究授業を行う。	研究授業の回数。 教員1人当たりの授業見学回数。	研究授業は延べ17回 授業見学平均4.8回	昨年の回数を保ちながら協議の時間も設ける	研究授業は延べ19回 授業見学平均5.7回	A	生徒の授業の授業アンケート（満足度）	84.3%	85%	第1回 84.3% 第2回 86.0%	A	継続	各教科で自主教材を作成し、天高スタンダードとして毎年見直しを行うなど、継続的に授業力・指導力の向上に取り組んでいる。 教科指導研修会や桃陰塾として経験の浅い教員を対象とした研修会も定期的に行われている。 今後は、生徒や教員へのアンケート結果が目標に達しなかった原因分析などを行い、質の向上や内容の精選など、さらなる取組の充実に取り組まなければならない。	AA
			継続	大阪府内外の先進的な取組を行っている学校を視察する。また、外部講師による教科指導法向上の講座を開講する。	視察校の数。外部講師により教科指導法講座の回数。	視察校3校 外部講師による教科指導法講座5回	昨年の回数を維持し。参加者の増加を図る	視察校3校 外部講師による教科指導法講座8回	A	生徒による学校教育自己診断アンケート（授業や教材、教え方の満足度）	91%	91%	89%	B	継続		
			継続	桃陰塾として実施する。	月に1回実施する。	7回実施	8回実施	7回実施	B	天高の教員になる。（歴史と伝統、校風の理解及びチーム天王寺の自覚についてのアンケートによる。）	95%	95%	83%	B	継続		
共通の取組	V. 総合的な学力の測定	10校が共通で実施する学力調査 大学入試センター試験への参加 大学入試センター試験の結果	平成27年度実績と平成28年度実績を比較										学力調査の結果については、特に2年次において伸長がみられる。 大学入試センター試験についても、5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合を伸長させており、今後の指導の継続ならびに充実を期待する。	AAA			
			大学入試センター試験の結果	358名中、337名 94%	限りなく100%をめざす	353名中、336名 95%	A	継続									
	VI. 課題研究活動	課題研究活動 コンクール・コンテスト等の成果	全体発表会	クラス内の勝者の発表	質疑応答を含めたフィードバック	分野別勝者が全体で発表	A	継続									
			全国規模のコンクール・コンテスト等の①受験者数 ②入賞者数	①157名 ②5名	①157名以上 ②5名以上	①127名 ②6名	B	継続									
	VII. 英語運用能力	TOEFLiBT TOEFLiBT以外の英語外部検定試験	TOEFLiBTスコア ①80点以上の人数 ②60点～79点の人数	①2人 ②11人	①4人 ②20人	①3人 ②17人	B	継続									
			①実用英語技能検定	①2級以上 22名	より高い級を目指させる	①2級以上 31名	A	継続									
	VIII. 進学実績	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）13校への進学 進学実績 国公立大学への進学 海外大学への進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）13校への進学	140名	150名	137名	B	継続									
			進学実績	進路希望達成率（年度当初の希望の達成率）	18%	20%	22%	A	再編								
			国公立大学現役進学者数	135名 (38%)	全体の40%	159名 (44%)	A	継続									
	<p>様々な教科の学びにアクティブラーニングを浸透させるよう工夫を始めるとともに、学校模試や自主教材を作成するなど、指導力の向上が継続的に進められている。今後は、課題研究のうち特に人文系の研究にどのように向き合うかが課題であろう。天王寺高校には、知的関心を醸成する土壌があることから「学びの型」を作るような学習環境の創出に期待する。大阪が誇る文武両道をめざす公立高校として、すでにアウトプットの上限には達しているかもしれないが、今後は選択と集中により、さらに教育の質を高められることに期待する。</p>															AAA	

総合評価

AAA